

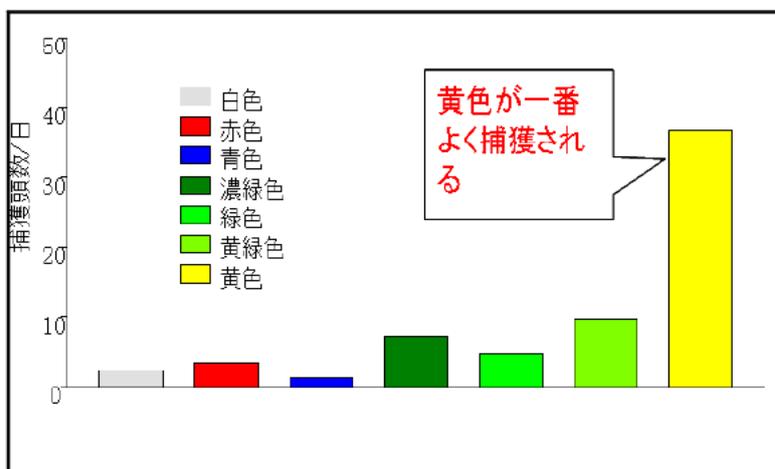
## 新害虫チャトゲコナジラミの簡易な防除適期の把握方法

利用対象：指導機関、茶農家

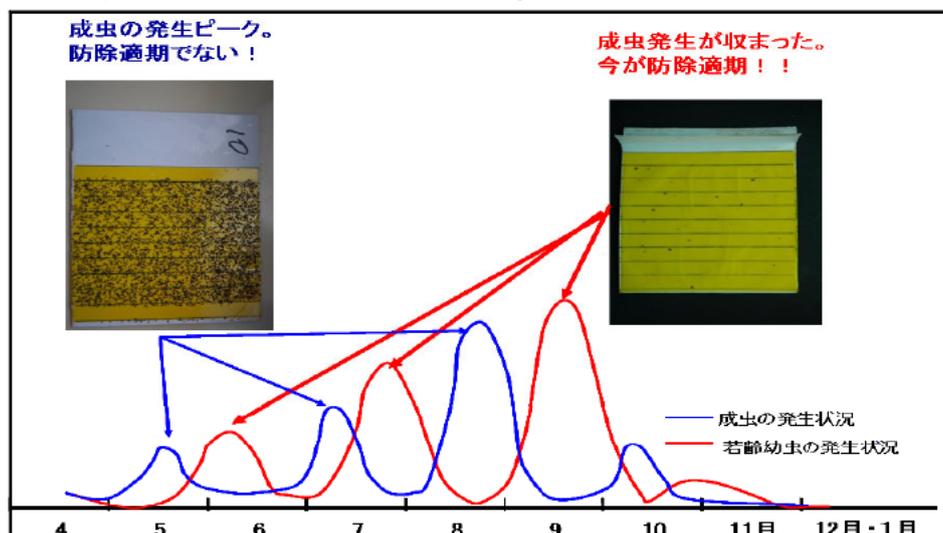
新害虫チャトゲコナジラミ(2011年命名)は2004年に京都府の茶園で日本で初めて発見されました。2007年には三重県でも発生が確認され、またたく間に県内全域に広がりその防除対策が急がれました。



まずチャトゲコナジラミの発生状況の把握方法を検討した結果、黄色の粘着トラップを茶畝の樹冠面すぐ上に設置すると当害虫の捕獲数が多くなり、把握しやすくなりました。



このように一定期間、黄色粘着トラップを設置することで、チャトゲコナジラミの捕獲状況から、容易に適期防除を判断することができます。



## 1. 背景とこれまでの課題

侵入害虫であるチャトゲコナジラミは繁殖力が非常に高く、対応が遅れるとまたたく間に高密度になります。そのため、未侵入茶園では早期発見が、また既侵入茶園ではチャトゲコナジラミの発生状況を的確に把握することが防除効果を高める上で重要になります。

## 2. 成果の概要

- (1)チャトゲコナジラミの成虫は、黄色に最も誘引されることが判明しました。
- (2)黄色の粘着トラップを茶畝の樹冠面上に設置すると、より効果的にチャトゲコナジラミが捕獲され、成虫の発生状況を把握することができます。
- (3)チャトゲコナジラミの防除適期は若齢幼虫の発生時期です。この時期は成虫の発生が終わった時期に相当しますので、黄色粘着トラップによって捕獲される成虫の数から容易に判断できます。以上から防除適期が判断できるようになります。

## 3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

化学農薬による防除効果は、チャトゲコナジラミが卵から孵化して間もない若齢幼虫の時期に限られます。これまでは「成虫がほとんどみられなくなった時期」と感覚的な把握にたよっていました。しかし黄色粘着トラップ（数種類、市販されています）を用いることで、簡易に防除適期が把握でき、効果的な防除が期待できます。

## 4. 普及上の留意点

黄色粘着トラップを使用してチャトゲコナジラミの発生状況を把握するために、一定間隔（5日程度）で交換する必要があります。

お問い合わせ先	茶業研究室 森 伸幸                      電話 0595-82-3125
参考になる資料	「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除マニュアル」（総合防除編等4部）
研究実施予算	「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」（2009～2011年） 連携機関：京都府立大学(中核)、静岡大学、久留米大学、(独)農業・食品産業技術研究機構野菜茶業研究所、京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所、滋賀県農業技術振興センター茶業指導所、奈良県農業総合センター茶業振興センター